



年 度 当 初					評 価 結 果 (2月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
【知】学び合う子 1. 社会で生き抜く力を身につける ①「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業・保育づくり ②きこえに応じた学びの充実	(幼) ・体験的な活動の充実 ・体験を通した言葉の拡充、表現する心情の育成	・新しいことに興味関心がある。 ・自分の思いを伝えたい気持ちがある。 ・きこえにくさにより、情報量が少ない。	・手話やキューサイン、身振り等を使って、のびのびと自分の思いを伝えようとしている。	・体験的な活動ができる機会を設定し、それをきっかけとして言葉のイメージを広げる。 ・絵日記や日々の生活の中で、身近な事象への興味や関心を育て、教師とやりとりをする中で、自分の思いを表現しようとする心情を育む。	・合同朝の会を設定し、絵日記発表を合わせた。友だちの話聞いて質問したり、質問を聞いて答えたりすることで、やりとりの幅が広がった。 ・「いものおかし作り」など行事の前にていねいに事前学習することで見通しをもったり言葉を覚えたりすることができた。活動の終わりの発表に慣れ、自分から発表する内容を考えることができるようになった。	B	・引き続き子どもの伝えたい思いを受け止め、のびのびと自分の思いを伝えられるようにする。 ・「楽しい」「おもしろい」以外の気持ちの言葉を使って思いを表現する機会を設け、やりとりできるようにする。	
	(小) ・意見や気持ちをお互いに伝え、関わり合いながら、ともに学ぼうとする子どもの育ち	・伝えたい・わかりたいという気持ちが高まっている。自分の意見を積極的に伝えようとする児童もいる。 ・伝えきれない、まとめられないなど、語彙数や文法・読解の課題がある。	・お互いに関わり合い、ともに学び合っている。	・五感を使って語彙を獲得するための適切な支援を工夫したり、獲得した語彙を使って伝え合う場面を設定したりする。	・発言をする際には、聞き手が話し手の方を向いてから話すこと等、話し合いや発表のルールを授業の最初に確認することで、友だちの話きいてから自分の話をするようになってきた。児童同士ことばでやりとりする場面が増え、ともに学び合おうとする姿が育ってきている。	・左記方策の継続。 ・児童同士で意思疎通ができていないときに、教師が程よく間に入って繋ぐ役割を果たす。その際に、児童の代わりに教師が全て説明しないようにする。	B	
	(中) ・学習規律 ・目標設定と振り返り ・話し合い活動	・ルール・やり方が明示してあると取り組みやすい。 ・学校生活を楽しみにしている。 ・思いを言語化することに課題がある。 ・予習、復習、学習ルールの定着に課題がある。	・自分の目標をもって学習に取り組んでいる。	・話し合ったり、協力しあったりする体験の工夫をする。 ・学習内容の定着に向け、自分の学習を振り返るための時間を設ける。	・学校祭に向けて、事前に昨年度の動画を見たり、当日までの日程を確認したりして見通しがもてるようにした。また、話し合いや振り返って気づきを伝えられる機会をもつことで、お互いの良さを感じることができた。 ・授業のはじめに今日のめあてを提示し、振り返りを行ったり、小テスト等を実施したりすることにより、以前と比べ自分の成長を感じられるようになってきた。振り返りの評価から、学習にそれぞれが積極的に参加し、学習内容の定着につながるよう授業内容を考え取り組むようにした。	・話し合いの機会を工夫し、自分たちで計画したり、振り返りをしながら次の活動を考えたりする等、話し合いが深まるようにしていく。 ・学部研で、学習の振り返りをする中で、達成感や課題を意識することができるよう検討していく。	B	
	(高) ・生徒が考えをまとめたり発表したりする授業実践 ・自学自習・家庭学習の状況把握と指導支援	・集団参加の経験を積んでいる。 ・ICT機器を積極的に使用している。 ・家庭学習の習慣化に課題がある。 ・進路実現に向けた強い意志を持っていない。	・進路実現に向けて自主的に学び、家庭学習に取り組んでいる。	・考えたことを書いてまとめたり発表したりする活動を確保する。 ・担任と教科担当との連携を密にし、自学自習、家庭学習の実態把握と指導支援を行う。	・各科目における実態把握、興味関心を高める導入や展開、振り返りの活用等の授業改善を行い、生徒の主体的な学びにつながった。 ・挨拶や宿題等の提出、一人一台端末の活用について生徒アンケートを実施し、どの項目も自主的に取り組む生徒は少ないという結果だった。教師による他者評価も行い、結果を担任と話し合うことで生徒の課題意識は高まった。	・アンケートによる実態把握や自己評価・他者評価に併せて、一人一台端末を効果的に活用した自主学习等、具体的な取組と両輪で進める必要がある。	C	
	(教務部) ・円滑な学習活動、行事運営	・幼児児童生徒は学習活動に素直に取り組むものの、受け身の姿勢が強い。また、個別的教育支援計画や年間指導計画(個別の指導計画)を作成しているが、それらを十分活用できているとは言い難い。	・子どもが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業が展開されている。	・授業や行事に関して各教科、各学部間の連絡調整を密に行う。 ・毎月の出席簿点検と併せて、授業時数の状況を大まかに把握する。 ・年間指導計画(個別の指導計画)の作成に当たり、教科会をもち、互いに見合う機会を設定する。 ・ケース会議を計画的に実施し、個別的教育支援計画の目標や評価を随時、共通理解する流れをつくる。	・授業や行事に関して各学部間の連絡調整を密に行ったり、毎月の出席簿点検と併せて、授業時数の状況を大まかに把握したりすることによって、概ね授業時数は確保できた。 ・年間指導計画の作成に当たり、中等部では教科会をもち、互いに見合う機会を設定した。 ・ケース会議を計画的に実施した。個別的教育支援計画の目標や評価を随時、共通理解する流れについては今後の工夫が必要である。	・教科指導の充実を図るため、中等部では夏休み中や年度末にも教科会をもつことを検討したい。 ・個別的教育支援計画の目標や評価を随時、共通理解する流れについてアイデアを出し合い、提案を行う。 ・「校務支援システム」の導入に向けての情報共有を進める。	B	
	(教育研究部) ・子どもが主役となる授業づくり ～「わかる」「できる」を目指した授業や活動の工夫～	・一昨年から「子どもが主役となる授業づくり」の研究に取り組み、3年目の年になる。それぞれの学部で「伝えようとする力」について研究を進め、情報交換などもできた。しかし、「子どもが主役となる」とはどのような姿なのか具体的な姿について、充分に共通理解が図れているとは言えない。	・教師一人一人が、「見通しを持ち、意欲をもって活動や学習に取り組む、学んだことを生活に生かそうとする子ども」を育てる授業づくりに取り組んでいる。	・各学部で、めざす子どもの姿について共通理解を図り、「わかる」「できる」授業の工夫について話し合い、授業及び活動実践に繋げる。 ・鳥豊スタンダードを活用し、授業の方法について振り返る機会を設ける。 ・一人1授業や参観ウイークの実施方法や設定方法を検討し直す。	・各学部の研究テーマに沿って授業及び活動実践を行った。幼稚園部は、活動を通して「やりたいこと」や「自分の経験」を話したり、友だちに質問をしたりする姿が見られた。小学部は、支援方法を検討し、思いや考えを表出・表現する力が向上しつつある。中学部は、学習環境作りとして、行事や学習について分かりやすく流れや目的を伝えるようにした。高等部は、主体的な学びを追求し、理解や定着度の把握や強み、興味・関心を生かす等の工夫をした。支援部は、目指す相談者の姿を明確にし、事例研を行う中で、成果や改善方策をまとめた。 ・年3回、学部研究会の機会に振り返る機会を設けるとともに、3回目は各学部で鳥豊スタンダードを通して自分で心がけたこと、これから意識して取り組みたいことについて発表し、共通理解を図った。 ・学部ごとに参観ウイークを設け、その機会に一人1授業を行うよう検討した。	・幼稚園部は、コミュニケーション方法の違う子ども達のやりとりを支え、表現力を育てる活動展開の工夫を検討したい。小学部は、児童の実態やねらいに合わせて必要な支援を検討するとともに、達成感を持てる活動を設定する。中学部は、失敗にも立ち直れる力をどのように育てるか検討したい。高等部は、教科会の充実や互いに授業を見合う体制を整える。支援部では、ニーズに対して迅速に対応するために、研修の時期の検討や研修パッケージを幅広く案内する。 ・日常的に鳥豊スタンダードを意識できるよう、一人1授業の指導案に項目を設けるようにする。 ・各学部の研究のまとめに向けて、12月までに参観ウイーク及び一人1授業を実施するようにする。他学部も参観しやすい日時を検討する。	B	
(情報部) ・ICT教育推進計画に基づいた、学びを深めるためのICT活用	・幼児・児童・生徒の学びが深まるよう、各教師が授業において、タブレット端末やスライドショー等のアプリケーションを有効に活用する機会は年々増えてきている。また、Google for Education等を授業において効果的に使い授業を行う場面も増えてきた。しかし、個々による実践は増えてきた一方で優れた実践を共有できていない現状がある。	・幼児・児童・生徒の情報活用能力を伸ばしていくために、「ICT機器を計画的に活用している」と答える教師が8割以上に達している。	・ICTを活用した授業を行う教職員のスキルが向上するよう、定期的にICT機器とアプリケーションの使い方・活用法に関する研修やオンラインやオンデマンドの活用に関する研修を催す。校内の教職員同士でも、情報共有できる場を設け、校内でのICT活用がより活発になるようにする。	校外学習等で生徒がICT機器を活用して、表現を行うなど新しい試みを行った。指導においては、ICT支援員より授業の中でのICTの効果的な活用について定期的にアドバイスを受ける機会を持った。また、情報部主催で定期的にICT機器やアプリケーションの使い方に関する研修を開くことで、教師がICTを活用して授業を行う場面が増えてきた。そして、学部内で有用性のある実践や情報を共有する場を設けるなど、教師間での積極的な情報共有も見られるようになった。	学部間での情報共有の機会が増えてきたので、学部を超えて情報共有できる仕組みを作っていく。	B		

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策
[徳]かなえる子 2. こうなり たい自分・夢 をもつ ③自分のきこ えを知る ④自分のよさ を知り、のば す、夢に向か う取り組みの 推進	(幼) ・人間関係の基礎の形成 ・自己肯定感の向上	・好きな遊びがある。 ・教師の仲立ちで友だちや他者と関わることを好む。 ・相手の伝えたい内容を理解したり、相手にわかるように自分の思いを伝えたりするのが難しい。	・楽しく遊んだり活動したりする中で、自分の良さや友だちの良さに気づき、自分からかかわろうとする。 ・行事や活動でめあてをもって取り組み、達成感を感じている。 ・係活動などで自分の役割を果たす喜びを感じている。	・子ども同士の思いを橋渡ししながら関わり、安心できる環境を作るとともに、一緒に活動をするよさを感じられるようにする。 ・少しずつ発展させながら活動を展開し、達成感や満足感を感じることで、自己肯定感を高める。 ・自分なりのめあてを持ったり、役目を果たす喜びを感じたりできる活動を設定する。	・遊びや活動の中で、子ども同士で相談する機会を継続して設けた。経験を重ねることで、遊ぶ内容や遊び方について、自分の考えを理由を付けて友だちに伝えることが増えた。教師とやりとりの練習をすると、自信をもって表現をしながら、子どもだけでやりとりできることもあった。 ・ごっこ遊びでは、自分の役割が決まると、張り切って最後まで役を表現することができた。	B ・相手の思いを聞きながら自分の思いを伝える経験を引き続き積み重ねていく。 ・一人一人に合わせた係活動を設定し、自分の役割を果たす喜びを感じられるようにする。
	(小) ・自分から友だちと関わろうとする姿 ・いろいろな活動に取り組み、得意な事や好きな事を見つけている姿	・友だちのことを気にかけて、教師に友だちのことを尋ねたり、自分から話しかけようとしたりする様子が少し見られる。 ・生活経験が少なく、身の回りへ関心が広がりにくい。	・友だちに自分から挨拶をしたり、遊びに誘ったり、声をかけたりしている。 ・得意な事や好きな事を見つけ、楽しみながら取り組んでいる。	・各教科等において自立活動の視点を大切にし、学習を振り返る機会を設定したり、その積み重ねを記録(ワークシート、作文、写真、絵等)に残したりする。 ・身体づくり運動、ダンス、仲間づくり交流会、交流および共同学習の機会の設定等、体験的学習の充実を図る。	・学校祭や遠足、クリスマス会など、学部合同での学習を通して中間評価時よりもさらに児童同士がお互いに気かけたり、声をかけあったりする様子がみられる。教師が間に入って繋ぐ場面が減り、朝の登校時や休憩時間、放課後等、自分から友だちに話しかける場面が増えた。	A ・左記方策の継続。
	(中) ・自己理解 ・進路学習	・素直で、互いを思う気持ちを持っている。 ・自分の思いを伝えたいという気持ちを持っている。 ・自分の良さや課題についてあまり把握していない。 ・将来に対するイメージをあまり持っていない。	・自分の良さを知り、相手の思いを受け止め、自分の思いを伝えている。	・目標を意識できる活動の工夫をする。 ・学年に応じた進路学習の充実を図る。(職場体験学習、職場見学などの活用)	・弁論大会に向けて、自分を振り返り文にすることで、成長した自分に気づくことができた。また、他の人の発表を聴くことで、思いを知ることができた。 ・職場体験学習(2年生)では、職場の担当者から評価してもらうことで、自分の良さや課題に気づくことができ、学校生活の中でどのようにいかしていくか考えることができた。職場・施設見学(1年生)では、様子を見たり話を聞いたりすることで将来の仕事に向けてイメージを少しずつ広げることができた。	B ・キャリアパスポートの活用を見直しを持って活動に向かえるようにし、次の目標設定や振り返りを確認しながら進める。 ・職場体験学習を計画的に実施し、高校や将来の仕事に対するイメージが広げられるよう学習を進める。
	(高) ・生徒の進路選択・進路決定につながる体験的学習 ・自己理解や他者との良好な関係を築く力を高める自立活動の指導	・自己肯定感の育ちが見られる。 ・目標を意識して取り組んでいる。 ・粘り強く取り組むことに課題がある。 ・他者と良好な関係を築くことに課題がある。	・他者と良好な関係を築きながら生活し、社会参加に向けた態度が育っている。	・職場や学校見学、現場体験学習をはじめとする体験的学習の充実を図る。 ・生徒が主体的に取り組む自立活動の指導の充実を図る。	・職場や学校の見学・体験、同年代の高校生との交流を通して、地域や社会参加に向けた積極的な態度が見られた。 ・校内の取組においても、手話パフォーマンスの学習では生徒の自己表現や傾聴の力が高まった。弁論大会では、自己の課題や社会に対する意見を述べるとともに、生徒同士で感想を交換し、前向きに話し合う姿勢が見られた。	A ・生徒が夢や目標に向かって粘り強く取り組み、その過程で社会性や人間性を育むことができるよう、目的意識を高め、実体験や話し合いを伴う学習を積極的に企画していく。
	(支援部) ・豊かな親子関係につながる相談支援活動の取組 ・センターの機能の充実に向けた効果的な取組	・保護者がきこえやことばの育ちの道筋がわからず不安になる。 ・保護者が子どもへのかかわり方や周りへの支援の求め方がわからず戸惑う。 ・年度始めにニーズが集中し、支援活動の日程調整が難しく実施が遅れる。 ・人事異動等に伴い専門性の維持・継承の困難さがある。	・保護者が安心して子どもにかかわり、きこえやことばの育ちを理解しながら実践しようとする姿が見られる。 ・教育的なニーズに対して、システムの構築をめざしながら専門的な相談支援活動を迅速に実践できる。	・教師がきこえやことばの発達や乳幼児段階の支援方法について学び、保護者に適切な支援を行う。 ・合同活動の充実や他学部との連携を通して、保護者同士のつながりを広げる。 ・関係機関での職員研修用として研修パッケージ(音声付パワーポイント資料)を作成し、グループワークスペース等を活用して情報発信を行う。 ・アセスメントを通級担当者が実施する等、通級指導の入級までのシステムを見直す。	・ほぼ全家庭がきこえの程度や補聴器の必要性について知り、個別相談や合同活動で自分の考えや疑問を積極的に話す姿が見られる。子どもの成長に合わせたかかわり方についても理解し、約8割程度の家庭が家でも積極的に実践している。 ・同年齢もしくは全体の合同活動及び保護者研修会を計画・実施した。保護者同士がつながり、学び合う機会となっている。 ・5つの研修パッケージを作成し、地域にオンデマンド配信するための準備が整った。 ・迅速な通級開始につながる新システムや、支援の流れを見直すことができた。	A ・保護者への説明に活用した基本資料や実践内容を整理し、保護者の理解や実践への意欲をより高められる資料活用・改善を行う。 ・子ども同士、保護者同士がつながり、合い学び合うよい機会となるよう、合同活動や保護者研修会の実施時期や回数を検討する。 ・地域における障がい理解とよりよい指導・支援の促進を目指して、聴覚障がいに関する基礎的な知識を得ることができる研修パッケージを幅広く案内するための方法を検討する。 ・通級担当者が初回のアセスメントを実施するなど、R-PDCAサイクルの視点で個に応じた指導・支援方法を検討する。
	(自立活動部) ・自立活動の指導を円滑かつ効果的に行うための専門性向上に向けた職員研修	・発音、言語、障がい理解等に関する職員研修や勉強会を行っている。一昨年度以前は聴覚障がい教育の理論を学ぶ研修を主に行っていた。昨年度からは、すぐに授業に生かせる研修となること目標に、研修を計画、実施している。	・自立活動の授業にすぐに生かせる研修を計画、実施し、職員アンケートの結果で「授業に生かせる内容がある」と回答した職員が、80%以上に達している。	・自立活動の専門性を高め、すぐに授業に生かせる内容の全体研修会を年3回、言語もしくは発音に関する自立活動勉強会を年3回計画、実施する。各研修会終了後はアンケートを取り、目標の達成度を確認する。	・全体研修会及び自立活動勉強会では、「研修内容が良く授業に生かせる内容であった」という評価がほぼ100%であった。	A ・来年度も引き続き、授業に生かせる内容となるような研修計画を立てる。 ・研修回数を増やしてほしいという意見が多かったため、増やしていきたい。行事等との兼ね合いを考えて、取り組みやすい回数、時間設定を行っていく。
	(総務部) ・子どもたちの活動の様子の掲示 ・学校の魅力の発信	・担当教員人数が少ないことから負担が大きく、掲示が少ない場合があり、業務効率化を進めるための工夫が必要である。 ・学校の史料等の保存状態が良くないことがある。	・効率的な掲示が進んでいる。 ・魅力的に発信することができている。	・業務内容の検討や改善を行う。 ・史料等の管理方法の検討・改善を行う。 ・掲示を工夫し、視覚的に魅力が伝わるようにする。	・掲示担当者だけでなく、行事の担当者や各学部と連携を取りながら掲示を行った。 ・管理室に遮光カーテンを取り付けたことにより、資料の劣化防止になった。	A ・掲示計画を立て、役割分担を明確にする。 ・歴史の部屋を有効に活用できるよう、方法の再検討を行う。
	(進路指導部) ・ニーズに合ったキャリア教育や進路に関する情報提供 ・実態や発達段階に合わせた社会人として必要な力の定着	・進路に関する情報提供やニーズに合った職場見学・学校見学・体験学習を実施できるよう努めている。 ・キャリアパスポートを作成し児童生徒の学習を積み重ねる一方、学部間の連携や書式の検討をしていく。	・生徒・職員・保護者のニーズに応じた進路に関する情報提供を行う。 ・キャリア教育の充実に向け、キャリアパスポートを活用している。	・児童生徒の希望を把握し、見学先や実習先を決定していく。 ・大学や相談事業所など関係機関と連携を図り、情報を職員間で共通理解していく。 ・進路学習や体験学習であがってきた課題や成果など保護者と共有したり、自身で振り返ったりするためにキャリアパスポートの活用を進める。	・進路に関する情報提供を実施し進路決定までの支援の一助を担うことができた。 ・職場・学校見学および職場体験や現場体験学習は、生徒や保護者のニーズに応じた場所で実施することができた。 ・保護者研修会として就業・生活支援センターの方を招き、就労までに身につけたい力や支援内容について学んだ。 ・キャリア教育の充実に向けて金沢大学の武居先生に講演をしていただいた。社会に出て状況に適應するための指導や支援方法を学んだ。キャリアパスポートは各学部ごとに生徒が振り返りしやすい形式で今後も活用していく。	A 進路学習や体験学習・研修会などで学んだことを活用し、課題について今後応えることができるよう、情報収集・伝達の方法を考え、実施していく。

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
[体]やりぬく子 3. あきらめない体力・気力 ⑤からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活に位置づける	(幼) ・からだづくり ・進んで体を動かそうとする心身の育成	・体を動かすことが好きである。 ・運動制限がある子どもがいる。 ・運動経験に差がある。	・いろいろな遊びや活動の中で、自分から進んで参加し、のびのびと体を動かす。	・ダンスや体操等からだづくりの機会を設定し、からだを動かす楽しさを知って、生活の中に位置づけられるようにする。 ・チャレキングなど外部講師の指導の機会を設ける。	・おにごっこやいす取りゲーム、ハンカチ落としなど様々な遊びを友だちと楽しむ中で、進んで体を動かして遊べるようにした。ルールを意識しながら楽しんで遊んだ。冬でも天気の良い日は、中庭に出て体を動かして遊んだ。 ・縄跳びでは、跳び方を相談したり目標回数を決めて挑戦したりすることで、自分なりのめあてをもって取り組むことができた。	A	・様々な遊びの環境を準備したり遊びに誘ったりしながら体を動かす機会を設定する。 ・チャレキングなど外部講師の指導の機会を引き続き設ける。
	(小) ・地道に作品作りや学級園の野菜作りに取り組んだり、各種コンクール、検定等に挑戦したりしている姿	・からだを動かすことを好んでいる。 ・見通しをもって活動に取り組むことができ始めている。 ・難しいと感じると、最初からあきらめがちになる。	・目標に向かって挑戦している。	・児童の実態に応じた素材やテーマを準備して作品作りに臨んだり、挑戦できそうなコンクールや検定を児童や保護者に紹介して授業と関連させたりしながら取り組む。 ・学級園で育てたい野菜を教師と相談しながら自分で選んだり、水やりや草取りなど畑作業をする時間を随時設定したり、簡単な調理活動を伴う収穫祭をしたりする。	・後期も競書大会や漢字検定等に挑戦している。最初から一人ですることが難しいときは、教師や友だちがしているのを見ることから始めた。見通しを持たせてからスモールステップで取り組むようにすることで、自分なりにいろいろなことに挑戦しようとする姿が見られるようになってきた。 ・振り返りの際に写真や動画を活用することで、具体的に何をがんばり、何が課題なのかを自分で客観的に確認することができた。	B	・写真や動画、掲示の工夫等、視覚的な支援を活用した振り返りの学習を行う。
	(中) ・基本的な生活習慣の定着 ・部活動参加	・友だちとの活動を楽しむことができる。 ・困った時に教師に相談ができる。 ・基本的な生活習慣の定着に課題がある。 ・学習に向かう基礎体力が充分ではない。	・基本的な生活習慣や学習に向かう基礎体力を身につけている。	・基本的な生活習慣の定着と基礎体力の向上を図る。	・中国地区ろう学校体育大会(卓球大会・陸上大会)に向けて部活動に日々取り組むことができた。初めて試合を経験し、改めて先輩に憧れをもち、来年度の大会の目標を設定する姿が見られた。長期休みの前には取り組みやすい活動を紹介した。 ・家庭学習や睡眠時間の確保ができず、翌日に影響する場面があった。「スマホ・ケータイ安全教室」を実施することでネット依存の基礎を学ぶことができ、自分を振り返る機会となった。LINEの使い方等ルールを守ろうとする姿も見られた。	B	・学部で出かけて行ってスポーツに取り組めるような機会を設定し、楽しんで体を動かせるようにする。 ・家庭学習の積み重ねができるよう、継続して声かけや宿題の工夫に取り組む。 ・研修の機会を作り情報モラルの意識向上につなげていきたい。
	(高) ・好ましい生活習慣への意識を高める取組	・部活動に積極的に参加する生徒が多い。 ・中国地区ろう学校体育大会等の大会に積極的に参加している。 ・進んで挨拶することが習慣化していない。 ・好ましい生活習慣の確立に課題がある。	・健康に留意するとともに、好ましい生活習慣を身につけている。	・好ましい生活習慣の確立に向けた取組の充実を図る。(スマートフォンの使い方、余暇の過ごし方)	・SNSは生徒に身近であり、少数ではあるが依存傾向の生徒もある。定期的情報モラル学習に限らず、生徒の実態に応じてタイムリーに学ぶ機会を設定したことは有効だった。9月から一人一台端末の活用が始まり、各家庭で考えた使用上のルールを学校と共有しているが、今後も使用状況について定期的な振り返りが必要である。	B	・家庭や情報部と連携して情報モラルの取組を進めるとともに、挨拶や返事なども含め、好ましい生活習慣の獲得に取り組んでいく。
	(生活安全部) ・学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画、学校給食計画を基にした、健康で安全な生活習慣の徹底 ・健康維持を意識した体力づくり	・学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画をもとに心身の健康や健康的な食生活について様々な取り組みを計画しているが、学校内だけの取り組みだけになっている。 ・継続して運動することが難しく、行事に向けての単発な活動になってしまっている。	・養護教諭、学校栄養職員、学級担任と連携し、学習したことを便りに掲載して家庭へ啓発をしている。 ・体力づくりに全学部で取り組んでいる。(各学部で体力づくりを設定する)	・保健日より、長期休業後の生活チェック表(年3回)、食育日よりなどを通して家庭への啓発を行い、学校、家庭と連携して生活習慣(生活リズム)の見直しを行う。 ・各学部の実態に応じて丈夫な体を作るための健康維持を意識した体づくりの習慣に取り組む。	・保健日より、食育日より、長期休業後のチェック表(年3回)を通して、家庭への啓発を行うことで生活習慣(生活リズム)の見直しを行うきっかけ作りになった。また、栄養職員による食育指導を実施し、健康な食生活を高めた。日々の生活につなげていくことが課題である。 ・各学部の実態に応じて、丈夫な体をつくるための体力作りでは、各学部講師を招き、体の使い方について指導をしていただいた。	C	・今後も引き続き、保健日より、食育日より、チェック表を通して健康な毎日を過ごすための健康維持の三要素「食事・睡眠・運動」のポイントを伝え、家庭と連携してよりよい生活習慣を見直し、健康維持に取り組む。 ・各学部の実態に応じた、丈夫な体を作り健康維持を意識した活動について情報交換を行う。
4. 業務改善 ⑥子どもと向き合う時間を充実するための業務改善	(業務改善) ・業務の効率化、簡素化 ・時間外勤務者の解消	・校内で完結する提出文書、作成文書に見直しの余地がある。 ・昨年度時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均3.5人、360時間/年超の職員が10人。	・時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均1人、360時間/年超の職員が3人。	・削減すべき業務、効率化をはかる業務を検討する。 ・教員自身がより勤務時間管理を行うことができるよう手立てを施す。	・時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均3人、360時間/年超の職員が5人(1月末現在)である。 ・職員朝礼の実施方法を見直した。 ・長期休業中に体外業務停止日を6日間設定した。	C	・時間外業務時間45時間/月超の職員は固定化しているが、問題点が業務の進め方なのか、業務分担なのか、その都度個別に確認する。

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだまだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)